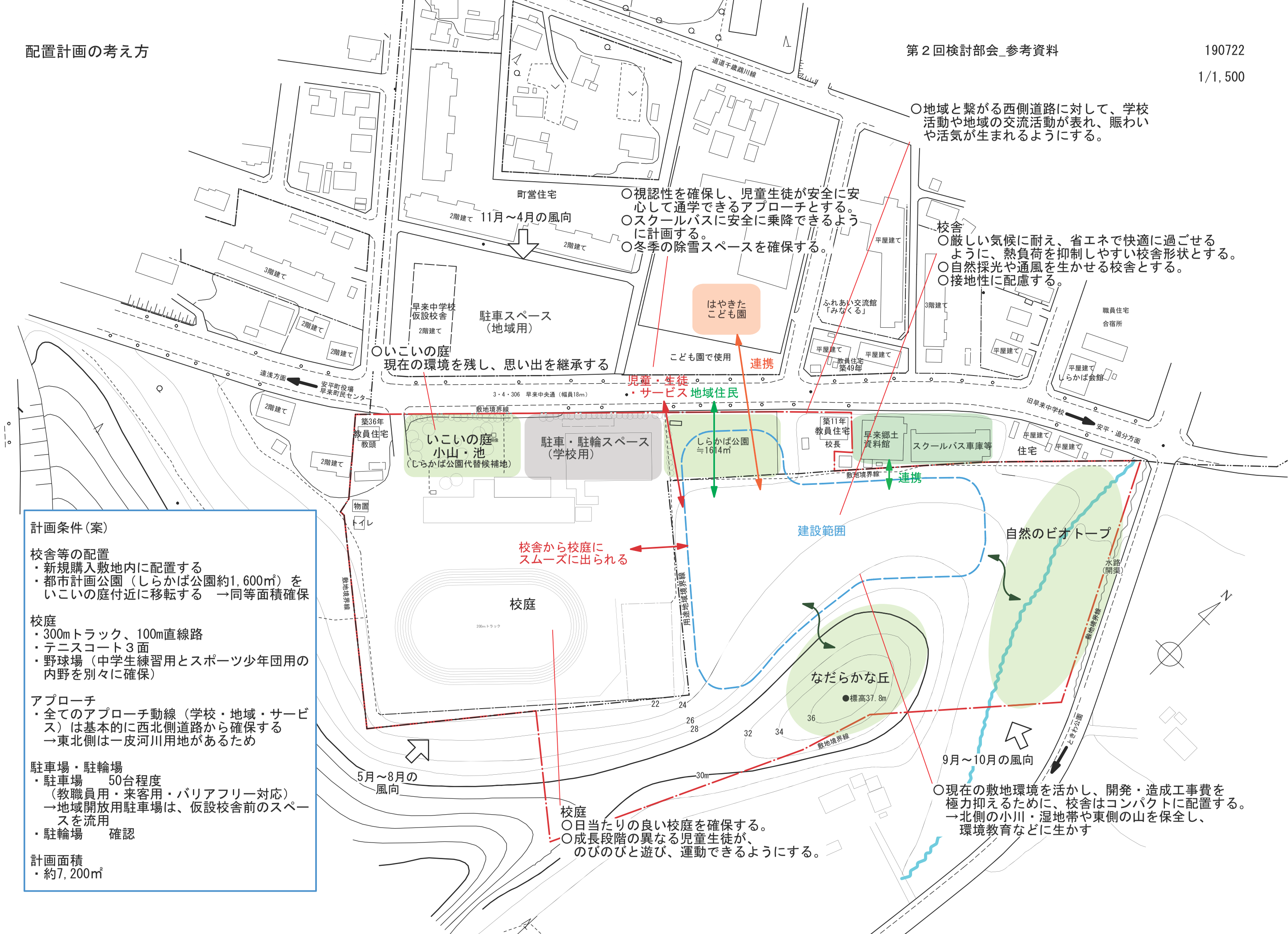
配置計画の考え方

第２回検討部会_参考資料　190722

1/1,500



○地域と繋がる西側道路に対して、学校活動や地域の交流活動が表れ、賑わいや活気が生まれるようにする。

○視認性を確保し、児童生徒が安全に安心して通学できるアプローチとする。
○スクールバスに安全に乗降できるように計画する。
○冬季の除雪スペースを確保する。

校舎
○厳しい気候に耐え、省エネで快適に過ごせるように、熱負荷を抑制しやすい校舎形状とする。
○自然採光や通風を生かせる校舎とする。
○接地性に配慮する。

○いこいの庭
現在の環境を残し、思い出を継承する

校庭
○日当たりの良い校庭を確保する。
○成長段階の異なる児童生徒が、のびのびと遊び、運動できるようにする。

○現在の敷地環境を活かし、開発・造成工事費を極力抑えるために、校舎はコンパクトに配置する。
→北側の小川・湿地帯や東側の山を保全し、環境教育などに生かす

計画条件（案）

校舎等の配置
・新規購入敷地内に配置する
・都市計画公園（しらかば公園約1,600㎡）をいこいの庭付近に移転する　→同等面積確保

校庭
・300mトラック、100m直線路
・テニスコート３面
・野球場（中学生練習用とスポーツ少年団用の内野を別々に確保）

アプローチ
・全てのアプローチ動線（学校・地域・サービス）は基本的に西北側道路から確保する
→東北側は一皮河川用地があるため

駐車場・駐輪場
・駐車場　　50台程度
（教職員用・来客用・バリアフリー対応）
→地域開放用駐車場は、仮設校舎前のスペースを流用
・駐輪場　　確認

計画面積
・約7,200㎡